

校長室より

第66号

「天空高き」



平成26年12月15日

## 普通科2年生インターンシップ—これからの人生をどう生きるか—

今年度から普通科2年生では、職場体験学習（インターンシップ）を実施しました。11月19日（水）朝、JRが事故のため山陽本線が一時不通となり、JRを利用して各職場に行く予定の生徒は、集合時刻に間に合わず慌てたと思います。しかし、各自、職場に電話連絡を入れて、落ち着いて対応してくれました。緊急時での冷静な判断と対応、大事なことです。



各職場からの評価票を拝見しました。ほとんどの事業所の方々から、好意的な評価をいただきました。生徒の皆さん方の努力の成果です。総評・所感に素敵なコメントが記入されていたので紹介します。



- ・積極的にお客様と会話をし、気付いた時にはマシンを拭くなどスタッフの指示がなくても動いていたと思います
- ・「一日の職場体験学習とはいえ、上の評価通り（お世辞ではなく）良いところばかりでした。仕事に早めに来る。理解が早い。言われた以上の事を進んでやる。自分から仕事を探す。接客で大事な挨拶「いらっしゃいませ、ありがとうございました」が気持ちよく言える。これは私達も良い刺激になりました。ありがとうございました

しかし、少数ですが、厳しくも温かい励ましの言葉もありました。

- ・外の掃き掃除を頼んだときに、知り合いの人が来ていたみたいで、外で立ち話をしていました。人が見ていないと思うところこそ、頑張れる大人になって欲しいと思います
- ・上着、ズボンに手を入れる癖があるので直して欲しい

今回のインターンシップを通じ、就業先の会社や仕事内容、上司などと直接触れることで、「なぜ働くのか」「なぜ(何のために)生まれてきたのか」そして、「残りの学生生活で何をしておくべきなのか」について、じっくり考えたのではないかと思います。

心の壁が徐々に人間の限界をつくらせる

登山家・プロスキーヤー 三浦豪太

## ちょっといい話—A friend in need is a friend indeed—

約1ヶ月前から松葉杖で登校している生徒がいます。

南岩国駅で下車して教室の自分の机に着くまで、健常者の3倍以上の時間はかかっていると思います。登下校だけで相当なストレスだと思えます。毎日私が声をかけると、彼女は笑顔でさわやかな挨拶を返してくれます。近頃は、彼女の側には友達がいつも一緒です。

困った時の友こそ真の友（A friend in need is a friend indeed.）という英語の諺がありますが、彼女にとって、その友達はきっと大きな支えになってくれるでしょう。

毎朝、彼女達の姿を見かけるだけで、彼女達から優しいぬくもりを感じます。



## 岩国市人権啓発フェスティバル—学校賞—



平成26年度岩国市人権啓発フェスティバルにおいて、今年も本校の生徒5名が賞を授与され、特選の2名の受賞者は当日ステージで堂々と朗読しました。また、3年前に続き学校賞を受けました。

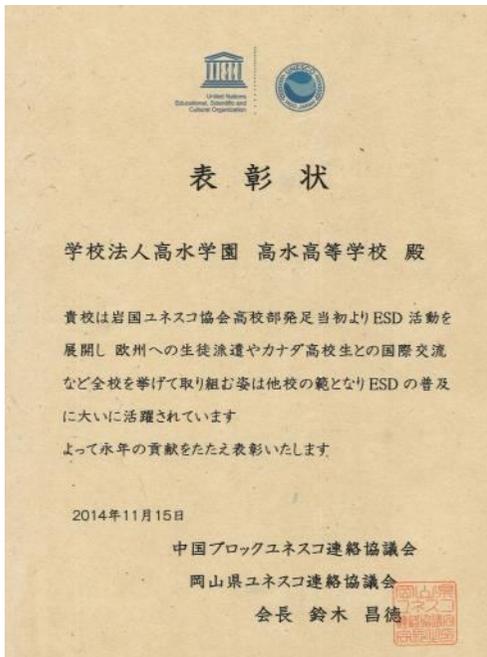
あらためて、人権とはと問われれば、皆さんはどのように答えますか。

人権とは、「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利」です。だれにとっても大切なもの、日常の思いやりの心によって守られなければならないものです。特に、中、高校生の皆さんにとっては、「命を大切にすること」、「みんなと仲良くすること」が人権を守ることとなります。

これから高度情報化社会の進展によって、インターネットを通じたプライバシーの侵害やいじめにつながる問題も、もっと数多く発生していくことでしょう。社会の情

報化、高齢化、少子化も進む中、人権はますます重要になります。「人権」は、難しいものではなく、だれでも、心で理解し、感じることのできるものです。この機会に改めて「人権」について考えてみたいものです。

## ESDー持続可能な社会を創って行くためにーその1



地球という限られた環境で、これから人間がずっと共生してゆくために大切なものは何でしょうか。

自分達の足元の暮らしと世界の結びつきに思いをさせ、長続きできる社会・経済・自然や開発のためにはどう行動すればいいのでしょうか。

地球上で起きている様々な問題、例えば貧困・エイズや環境破壊などは、様々な立場の人間同士の対話と協働にこそ答えがあるのではないかと思います。

そんな発想でユネスコ（国連教育科学文化機関）が進めてきたESD（持続可能な開発のための教育）の普及活動が、今年で10年目を迎えました。

本校はユネスコスクールに認定されて3年になりますが、今からちょうど50年前に本校ではユネスコ部を立ち上げ、地道に地域社会

と密着した活動に取り組んできました。そして、その活動が評価され、今年8月に岩国ユネスコ協会から感謝状を、11月には中国ブロックユネスコ連絡協議会から表彰されました。ESDは私たちとその子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような諸問題について考え、立ち向かい、解決するための学びです。皆さん一人ひとりが持続可能な社会の担い手であることを自覚し、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し「関わり」「つながり」を大切にしていくことで、我々の住みやすい地球となるでしょう。

※標記の表彰状は津山市横野地区で作られている手漉き(てすき)和紙です。津山市の重要無形文化財に指定されている上田繁男さんに、特別に依頼して、作っていただいたそうです。

## ボランティアー持続可能な社会を創って行くためにーその2

この感謝状は、12月1日に岩国商工会議所青年部の方が本校に来校され、いただいたものです。11月に開催

された岩国祭で、岩国商工会議所青年部主催の子供広場の行事に、岩国市内の他校の生徒と一緒に本校の生徒3名がボランティアでお手伝いしました。

本校の生徒は全員「ESDパスポート」を所持しています。その巻頭に、「私たちは宇宙船地球号に乗る未来への旅人です」とあります。

たとえ一人ひとりの力は小さくても、みんなで知恵を絞り汗を流しながら力を合わせれば、世界を変えることができます。

ボランティア活動も、持続可能な社会を創っていくための素晴らしい活動の一つです。

今回の件以外にも、岩国総合支援学校で、各地域のお祭りで、ソロプチミストで、小学校で、そして他県に出向いてなど、多くの生徒たちがボランティア活動に参加しています。本当に素晴らしいことで、誇りに思います。本校の図書館横に『一滴の碑』があります。一滴の水が大海を潤すように、皆さん一人ひとりの小さな力がやがては大きな力となり、日本をアジアを、そして世界を動かす大きな力となると思います。

**「私はこの賞を受賞しますが、これで終わりではありません。これは私が始めた活動の始まりなのです。なぜならこの賞は身につけたい部屋に飾りたいするメダルではないからです」(読売新聞 10.13)**

この賞とは、言うまでもなく今年のノーベル平和賞のことである。史上最年少の17歳での受賞ということで、世界中の話題をさらったが、彼女の名はその前から知られていた。昨年の10月、16歳の時に国連本部で、「すべての子ども、特に女子に教育を受ける権利の実現を」と訴える演説を行っていたからである。

さらに、「私の人生は変わったものは何一つありません。次のものを除いて、です。弱さ、恐怖、絶望が死にました。強さ、力、そして勇気が生まれたのです」と語った。銃弾と引き替えに得たものは勇気。ノーベル賞は賞の名において彼女の支援を約束したことになる。

(出典 講話に生かせる現代の名言集 五嶋靖弘)



**二十四節気 『大雪』** 12月7日～北風が次第に強く吹くようになり、雪も降るところから「大雪」(たいせつ)と呼ばれる。